

お金では買えない関係。  
でも、お金と時間をかけないと築けない関係があるんだ。

合宿の興奮が未だ冷めやらない。  
今も過ごした時間の断片から拾い直して発見がある。

合宿で皆さんから頂いた物は、お金だけでは買えないものばかりだった。

陽子さんが証跡のヨガやアウトプットの時間を割いて作ってくれたベーグルはバージョンアップしたものだった。

メンバーが探求してきた健康にまつわる、お勧めのサプリメント詰め合わせも頂いた。

他のメンバーの保険証券診断コメントは、専門家に相談しないと聞くことが出来ないコメントでありつつ、私の背景を知った上でのアドバイスも追加しての、本当に私にカスタマイズされたものだった。

(青森からアップルパイを輸送してくれた方にも感謝です)

合宿では、私が今まで10プロで伝えていなかったことを話して、楽になった部分がある。

関わり合いをテーマにした2022年。そこから更に半年間、自己開示と踏み込みを試し続けたメンバーだったからこそ、その場では伝えようと決めていたことだった。

決めていたことに加えて、美味しい食を共にして、ラウンジやセミナールームで課題に格闘した空気を共にしたからこそ、同じ場に「居た」からこそ口に出せたことだった。

気付いたことを伝えるかどうか。

それぞれが別の着眼点で気付いていて、だからこそ自分だけの感覚？と思って言えなかったことを去年は積み重ねていた。

それから「まず言ってみる」を最初は試して、いつの日か「言った方が良い」という認識に変わっていたと思う。(これは私一人の感覚ではなくて、チームとしての共通認識だと今は確信出来る)

広い日本で別の場所に住む、たった数人のつながり。

そのつながりがあると思えるだけでこんなに心が安定するのだと知った。

だけど今の場所はゴールではない。

あと半年、個人としての目標達成と、チームとしての高い望みを、両方叶えると思ってもいいんだ、目指してもいいんだと思えるようになった。

ストレッチした目標に対しては、もちろんその過程で苦しいこともあるだろう。

でも一人で頑張っているんじゃない。だからきっと乗り越えられるんだと思う。

まだ始まってもない2023年後半戦だけど、そう思っている。

----その2----

・ 計画していた時間以外も含めて、書ききれないほどの刺激と意欲を頂いた合宿でした。

「社長のカバン持ち」とも書かれていましたが、陽子さんはその場の判断がとても速いですし、例えば店員さんなど初見の方への自然なリクエストの出し方から、陽子さんが自分の環境を自然に過ごしやすくしている生き様を感じることが出来ました。

合宿前のミーティングから「踏み込み」への熱意を感じていたメンバーからは、公開個別フォローでの「裸になった感」の疑問を、納得のいかない表情も含めて伝えて頂いたと感じています。

最後の「押しつけ」でも、これまでのふり返りセッションやコメントで私に伝えて頂いていた通り、私の人生が生きやすくなるようにとの思いが伝わりました。

他のメンバーからは実際に仕事でもこんな風にお客様に接しているのだろうかという一端を感じ取れました。(ドアの開閉時に手を置く所作や、上品なハンカチなど)

朝早くからマーケットを確認する話や、仕事のパフォーマンスを意識して過ごされてきた話も聞いて、自分で認識されている以上に、仕事に熱意を持って取り組まれているのではと感じました。

私の話を聞いて怒りを表してくれたのも嬉しかったです。

「どこまで裸になれるか」とは言っていたものの、本当に裸になって過ごした時間(大浴場)もありました。

時間も相当に押していて、大浴場しか選択肢がなかったという背景はありましたが、躊躇の念が浮かばなかったという自分に内心驚いていました。

私は人よりも食べられる量が少ないです。(脂の乗った物は好きなのに、消化が間に合わず、農耕民族の血を感じています)

外食する際には店の失礼にならないようにと必死に格闘している時もあります。

サラリと大丈夫かと尋ねられ、引き取るよ〜と笑顔で受け止めてくれる。

本当にありがたかったし、嬉しかったです。

そんな風に、自分の弱みも出せる仲間になったと感じた合宿でした。

(A.S 40代女性 北海道)